



令和7年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 3 号
令和7年5月30日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

新たな発見と期待 No.2

校 長 金子 慎一郎

入学式から2ヶ月が過ぎ、1年生は中学校生活にも少しずつ慣れてきたころだと思います。学校では大きな行事の一つである体育祭も開催することができました。前日までは25℃超えの日が続き、熱中症対策として隣の大砂土中学校からテントを借り、生徒席にテントを張り巡らせました。幸い当日の天気は曇り空で、気温もさほど高くなく競技をするには最適な気候になりました。競技の方では改めて3年生の姿に感動し感銘いたしました。保護者の皆様にも生徒が活躍している姿を見ていただけたかと思います。



体育祭の余韻も冷めぬ中、5月30日（金）からは学校総合体育大会が開催されます。先陣を切ってサッカー部が試合に挑みます。他の運動部の生徒も日頃の練習の成果を発揮して頑張ってくれると期待しています。壮行会では代表の部長さんの力強い言葉を聞き、それぞれの試合会場で応援したいと思いました。私も「練習は本番のように・本番は練習のように。気持ちを落ち着かせ、自分の力を発揮できるように」激励をしました。3年生にとっては最後の大会になります。それぞれの種目において持てる力を出し切ってほしいと思います。

話は変わりますが、先日あるテレビ番組で最も売れた本の1つに『悪口ってなんだろう』（和泉悠著・ちくまプリマー新書）という本が紹介されていました。紹介文には次のように書かれています。「悪口とは『誰かと比較して人を劣った存在だと言うこと』である」と定義する。悪口になってしまう言葉とは何なのかと考えがちだが、同じ「バカじゃないの？」でも、電車を寝過ごしてしまった後で親友から言われるのと、学校の先生から授業中に言われるのではまったく違う。悪口は、言葉でなく、誰かを劣った存在として取り扱う時に生じるのだと紹介されていました。

さいたま市では6月を「いじめ撲滅強化月間」に位置付けています。最近、担任に相談をしてくる生徒の中にLINE・インスタグラム等のSNSで、悪口等の書き込みによるトラブルが増えているように感じます。そういったトラブルの中には、対面で相手の表情を見ながら会話をしていれば、そこまでトラブルにならないようなことも多くあります。短い文字のみのコミュニケーションによって、相手の表情を見ずに言葉を返すことによってエスカレートするような案件や、第三者が発信された内容を見て、事実を知らないにも関わらず勝手に送り合うことで相手を傷つけているような事案が発生しています。SNS上では集団で行為を行っている意識が生まれにくいのか、言葉の暴力に歯止めがかからずに攻撃し続けてしまう様子も見られます。そこで、学校ではトラブルの防止の意味も含めて、スクールロイヤーによる特別講演「人権からいじめを考えよう！～誰も傷つかない・傷つけないために～」を実施いたしました。講演の中でいじめが気づかぬうちに深刻化する理由に、いじめている側の間違った考え方があると紹介されていました。具体的には、「いじめている側は自分の行為をいじめだと認識していない。」そして、「たとえ認識していても、正当化しようとする」その理由として、「相手が悪いから」や「ちょっと悪ふざけしただけだから」といった事柄が挙げられていました。とても分かりやすく生徒にも理解しやすかったと思います。土呂中学校からいじめが無くなるように皆さんも真剣に受け止めて生活してください。